

愛知医大生化 ○柴田幸雄 仲佐輝子[※] 岩田章子^{※※} (※ 同女大栄化,
 ※※ 稻沢女短大)

V. B₆ 欠乏の白ネズミにL-トリプトファンを投与すると大量のキサンツレン酸が尿中に排出され、白ネズミが糖尿病様症状を発現する事は古武らによって明らかにされた。教室の大塚・横峯らは V. B₆ 欠乏白ネズミにおける耐糖能を調べ去年の糖尿病学会で発表した。今回はこれに基づき V. B₆ 欠乏白ネズミにおける耐糖の動きを更に精細に検討すると共に、糖尿病患者における V. B₆ の動態について調べ興味ある結果を得たのでここに報告する。

結果 1. 耐糖能実験

- a) V. B₆ 欠乏における耐糖能は明らかに低下している。
- b) キサンツレン酸の投与はその耐糖能をさらに悪化させる。
- c) 5-オキシアンスラニル酸の投与は逆に耐糖能の低下を回復させる。
- d) 白ネズミの V. B₆ 欠乏は幼若期から実施した場合にのみ著明な変化がみられ、ある程度成熟した白ネズミではあまり著しい変化はみられない。(山田ら・本年度糖尿病学会にて発表)

2. 糖尿病患者における V. B₆ の動態

糖尿病患者における血中 V. B₆ の動きを調べると、V. B₆ そのものの変化はみられないが活性型であるピリドキサルリン酸の量は著しく低下している。(服部、宇賀田) これらの事実から、糖尿病患者ではピリドキシニンからピリドキサルリン酸への変化がおさえられ、正常におけるより V. B₆ の必要量が増加しているように思われる。(吸収能の問題も考慮せねばならない。)